

DOWA グループが自治体などと協働する支援・事業

災害復興支援



大地震や台風、集中豪雨などの災害時には、被害にあった冷蔵庫や洗濯機などの家電品や災害廃棄物を受け入れ、水俣工場などで処理しています。

8月に発生した豪雨時に稲川グラウンドへ持ち込まれた家電品も処理しています。

【実績】・2016年 熊本地震 被災家電品：4.0万台
災害廃棄物：22万ト
・2020年 熊本豪雨 被災家電品：1.6万台

福祉との協業



アクトビーリサイクリング(株)水俣工場での約20年の実績をベースに、パソコン、OA 機器、基板類、小型家電等の手分解・手選別作業を主体に障がい者雇用を促進。

バリアフリー化も推進し、全従業員が働きやすいと感じる職場づくりを目指しています。

熊本事業所でも今年度中の福祉協業開始を目指し、準備を進めています。

Interview



DOWA エコシステム(株)
やない やすはる
矢内 康晴 代表取締役社長

Q 宇城市を選んだ理由は

A グループ会社・アクトビーリサイクリングがある水俣市から1時間以内の立地であること、九州全域を市場ターゲットとするにあたり、宇城市がちょうど「九州の真ん中」に位置することが決め手でした。また、雇用の面でも1時間以内の通勤圏に熊本県人口の25%が集中していること、同じ圏域に8つの高校・高専が立地していることも魅力的でした。

Q 今後の展望を教えてください

A まずは3種類(非鉄金属・プラスチック・貴金属)のリサイクル事業から着手します。現時点では敷地面積の半分も使っていないので、拡張余地が十分にあります。今後は水俣市で長年展開している障がい者の方々と

協業を通じた福祉リサイクルや、将来的に大量排出が予想されている太陽光パネルのリサイクル、農業・林業などの廃材を活用したバイオマス固形燃料製造、水俣市で手掛けている家電リサイクルなどの事業を検討しています。

Q 市民の皆さんへ一言お願いします

A 宇城市に設立したこの事業所を、九州全体における総合リサイクル拠点として事業規模を拡大し、地元雇用の促進や各種地域行事への参画、環境・SDGs教育など、さまざまな形で地域振興にも注力してまいります。「宇城市といえばDOWA」と言っていただけのように、市民の皆さまにとって身近で親しみやすい、地元で溶け込んだ「開かれた工場」を目指してまいります。

宇城市の未来のため

その土地 企業誘致に活用しませんか

年々、宇城市に拠点を置く企業が増えていますが、宇城市には企業誘致をするための土地が足りておらず、土地の情報を募集しています。

対象 右の①～③の全てに当てはまる土地
※市が土地を取得するわけではありません。

①賃貸や売買が可能な自己の所有地

②面積が3,000㎡以上

③国道や県道などの
大きな道路沿いにある

※それ以外でも大型トラックなどが
通行可能なら OK



情報提供は
こちらから

土地活用までの 4 STEP

STEP 1

土地の所有者などの関係者で、土地の今後について相談

STEP 2

売る・貸すを検討し、地域振興課へ相談

STEP 3

土地の登録申請

STEP 4

問い合わせがあった企業に情報を提供
※市や県の要件を満たす企業のみ



働く人の声を紹介します

DOWA エコシステム(株)の働きやすいと感じるポイントややりがいなどを聞きました。

工場の見学も大歓迎です！

働きやすさのポイント

- 地元で働ける安心感
- 多様な仲間と協力できる職場
- 福利厚生が充実、オフも楽しい
(社内レクリエーション、スポーツ活動)

新工場準備室
一口理班長
(36)



新工場の立ち上げに関わり、効率や安全面の改善を提案できるのがやりがいです。若手の指導やチーム運営にも携われ、自分の経験が活かせる環境で責任感を持って働いています。仲間と協力して成果を出す達成感も大きいです。執務室も快適で仕事のモチベーションが上がります。



新工場準備室
上田 浩貴さん
(30)



使用済み家電を解体・選別し、プラスチックや金属などを再資源化する過程に携わることで、環境保全や循環型社会に貢献できる実感があります。仲間と協力して効率的に作業を進め、成果が目に見えることもやりがいを感じます。カフェのような食堂で休憩するのが日々の楽しみです。